

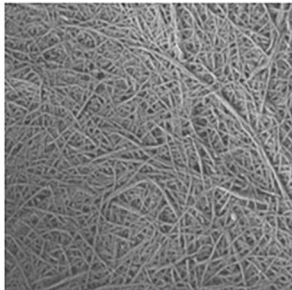
星光PMCは、ナノファイバー「メーカー」として発展を遂げる。セルロースナノファイバー(CNF)配合ペレットは複数の自動車部品メーカーとの間で物性評価が進展し、大幅なコストダウンのめどもつけた。一部のユーザーは2026年にも実用化を構想しているもよう。一方、今年1月に子会社化した方二穀由来ナノファイバーを扱うマリンナノファイバーとは商流、技術面でCNFとの相互補充、相乗効果を狙う。今後もM&Aを含めてポートフォリオを拡大していく方針だ。



菅社長

CNF配合ペレット「STARCEL」は、疎水変性バルブをホリエチレンやポリプロピレン

ナノファイバー企業に進化



多分散性や易加工性、多様な水性分散性、生体適合性、ナノレベルでの物性制御が期待できる

多分散性や易加工性、多様な水性分散性、生体適合性、ナノレベルでの物性制御が期待できる

などとの混練工程でナノセルロースに解繊する、いわゆる「京都プロセス」により竜ヶ崎工場（茨城）県鹿嶋市）で製造している。実用化が先行しているランシックスのランニングシューズのソールへの累積採用数は1000万足を突破。日用品用途でも広がりをみせる。

CNFは自動車部品で評価進展

自動車部品向けでは、複数ユーザーとの間で物性評価が進展中。菅正道社長は「すでに基礎物性は目標値をクリアし、実用性も、ある程度のレベルまで到達できている」と、高水準の要求に応える研究開発が続いていると明かす。

一方、高単価の課題については、生産性向上によるコストダウンがみえてきた。新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)のプロジェクトで自動車向けペレットの革新的プロセスの開発に取り組んでおり、「生産性を従来の3〜4倍に高める

めどがついた」と菅社長。悲願の用途で物性とコストでフレックスループをみえてきたなか、研究開発を担う岩田悟執行役員技術本部長は実用化時期について「複数のユーザーから26年あるいは30年には、という話をいただいた」

子会社との相乗効果狙う

M&A含めポートフォリオ拡充

「セルロースは地球上でもっとも多く産出される多糖類で、2番目はキチン(岩田氏)。今年月には方二穀由来のキチンナノファイバーを扱うマリンナノファイバーをグループ化。CNFに比べてまらないナノファイバーを幅広く手がけるメーカーとしての一歩を踏み出した。

CNFは工業用途、キチンナノファイバーは動物ケア製品や化粧品などヘルスケア領域に展開しており、今後は相互の市場への乗り入れを狙う。マリンナノファイバー社長も務める岩田氏は「自社最終製品を普及させる一方、密着を含有し、界面に対する吸着性が高いキチンナノファイバーのユニークな点を訴求していきたい」と、原料ビジネスの拡大に意欲を示す。

また世にそれほど知られていない2000年代にCNFに着目し、事業育成に尽力してきた滝沢智取締役会長も「変性技術を生かして面白い素材をつくれれば」と期待を寄せる。キチンナノファイバーはCNF以上に高単価だが、少量添加によるCNFの高機能化や新素材の開発にも弾みがつきそうだ。技術を軸としたグループシナジー創出に努めるとともに、今後とも協業やM&Aで事業ポートフォリオを拡大していく(菅社長)と、新たな加える。

「セルロースは地球上でもっとも多く産出される多糖類で、2番目はキチン(岩田氏)。今年月には方二穀由来のキチンナノファイバーを扱うマリンナノファイバーをグループ化。CNFに比べてまらないナノファイバーを幅広く手がけるメーカーとしての一歩を踏み出した。

CNFは工業用途、キチンナノファイバーは動物ケア製品や化粧品などヘルスケア領域に展開しており、今後は相互の市場への乗り入れを狙う。マリンナノファイバー社長も務める岩田氏は「自社最終製品を普及させる一方、密着を含有し、界面に対する吸着性が高いキチンナノファイバーのユニークな点を訴求していきたい」と、原料ビジネスの拡大に意欲を示す。

また世にそれほど知られていない2000年代にCNFに着目し、事業育成に尽力してきた滝沢智取締役会長も「変性技術を生かして面白い素材をつくれれば」と期待を寄せる。キチンナノファイバーはCNF以上に高単価だが、少量添加によるCNFの高機能化や新素材の開発にも弾みがつきそうだ。技術を軸としたグループシナジー創出に努めるとともに、今後とも協業やM&Aで事業ポートフォリオを拡大していく(菅社長)と、新たな加える。